

## りんご「ふじ」のつる割れ発生防止対策の確立を目指して

農林総合研究センターりんご試験場 栽培部

りんご「ふじ」は良食味で貯蔵性が高く、国内りんご総生産量の約半数を占める最重要品種ですが、欠点の一つに通称「つる割れ」と呼ばれる裂果がしばしば発生します（写真1）。しかし、この発生要因については十分に解明されておらず、袋かけをすること以外に効果的な防止対策が確立されていません。そこで、つる割れの発生要因の解明と防止対策の確立を目指した研究に取り組んでいます。



写真1 つる割れ



写真2 内部裂果

収穫期前に果実を縦に割ってみると、つるもとに亀裂が発生していることがあり、外側から見えないことから、「内部裂果」と呼んでいます（写真2）。つる割れはこの内部裂果の亀裂が拡大した結果ですので、内部裂果の発生をどれだけ抑えられるかが、つる割れの発生を防止する上で重要になります。

当場の研究から、内部裂果は果実が盛んに肥大する時期である8月下旬頃から発生し始め、この時期に肥大がより旺盛な果実ほど裂果しやすいことが確認されました。また、この時期の降水量が多い年ほど裂果が多いことも明らかになりました（図1）。このことから、降雨による果実肥大の急激な増大を抑えることが、防止対策の鍵になると考えられます。

これらの成果をともに、現在、樹勢調節、樹冠下マルチの敷設、植物生育調節剤の利用などでつる割れの発生を防止できるか検討中です。

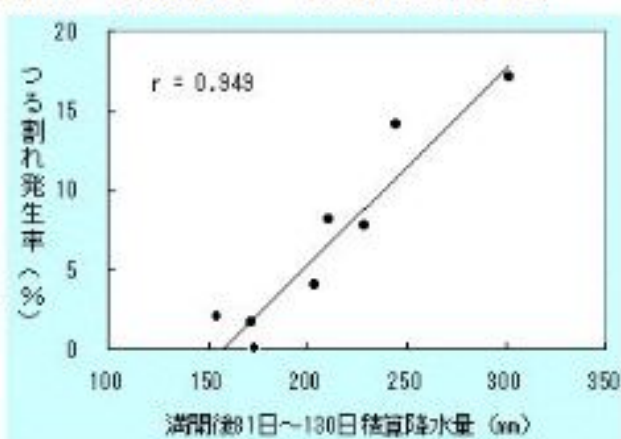


図1 つる割れの発生と降水量の関係